

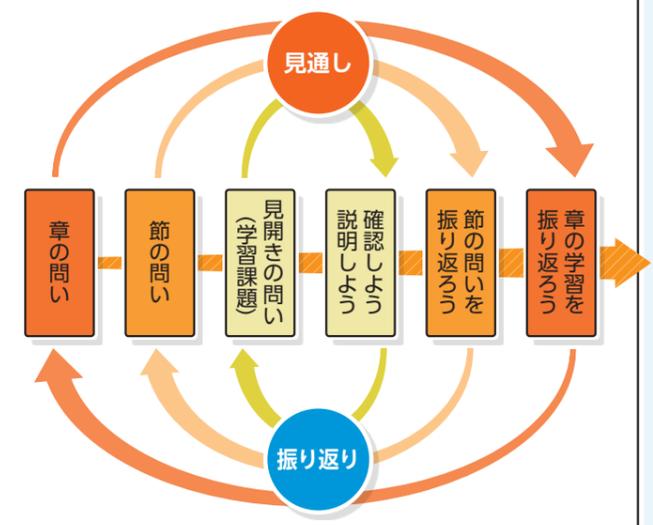
特色③ 深い学びにつながる「問い」 見通し・振り返り学習がしやすい構造

①章・節の構造

特色③では、見通し・振り返り学習がしやすい「問い」の構造について説明しています。この構造により、単元のまとまりで課題解決的な学習ができ、「深い学び」につながります。

見通し・振り返り学習を積み重ねて
深い学びの実現へ

深い学びにつながる「問い」の構造の
全体イメージ



本教科書は、章・節・見開きという三つの構成をとっており、章は中世や近世といった時代を、節は章を細分化した時代区分やテーマを、見開きはそれぞれの政治・経済・文化の歴史を扱っています。そして章・節・見開きには問いと振り返りを設け、それぞれのなかで見通し・振り返り学習ができるようにしています。このように見開きから節へ、節から章へと見通し・振り返り学習を積み重ねていき、章の最後の「章の学習を振り返ろう」では、「章の問い」(課題)を自分なりに追究していくことができる構成になっています。

ポイント

章と節の
関係イメージ



各節の「節の問い」の積み重ねが「章の問い」の追究につながります。

章の問い

▶章のはじめには「章の問い」を設けています。この単元を貫く問いを明示することで見通しをもって学習に取り組みます。

第2部第3章 近世

章の問い 全国を統一する安定した政権を成立させたものは何か。

第3章 近世 武家政権の展開と世界の動き

章の問い 全国を統一する安定した政権を成立させたものは何か。

第1節 大航海によって結び付く世界

第1節の問い p.94~101

ヨーロッパの国々は、なぜ世界に進出したのだろうか。

▶1 イスラムの国での研究の様子 イスラムの国々では、ギリシャやインドの影響を受けて、さまざまな学問が発展しました。
資料活用 図版1の中から下に挙げたA~Cを探してみよう。
A. 地球儀 B. 砂時計 C. アストロラーベ

▶2 羅針盤 航海のときに方向を知るための道具です。磁石の南北を示す性質が中国から伝わり、ヨーロッパで実用化されました。

▶3 アストロラーベ 天体の高度を測るための観測器具です。船の上で地球の緯度を知ることができました。

この人たちは何の研究をしているのかな。

1 ヨーロッパの 変革



▶4 ミケランジェロ作「最後の審判」ローマ教皇に命じられ、ミケランジェロはローマの大聖堂や礼拝堂などに壁画や彫刻を制作しました。この絵は60歳から6年がかりで完成しました。(バチカン市国 システティナ礼拝堂蔵 高さ14.4m×幅13.3m 16世紀)

▶学習課題 キリスト教に基づいたヨーロッパの文化や社会は、イスラム商人との交流により、どのように変化していったのだろうか。

▶1 イスラムとの交流とヨーロッパ キリスト教が人々の精神的な支えとなっていたヨーロッパでは、ローマ帝国の分裂後、しだいにローマ教皇(法王)を首長とするカトリック教会の勢が増し、各国の王をしのぐ力をもつようになりました。11世紀末、教皇がイスラム勢力の中にある聖地エルサレムを奪い返すよう呼びかけ、ヨーロッパ各国の王は十字軍の遠征を行いました。

この試みは失敗しましたが、ヨーロッパの国々とイスラム勢力が接触したことで、イタリア商人とイスラム商人の貿易が活発になりました。ユーラシア大陸を広く行き交うイスラム商人との交易により、彼らが航海などでつちかった天文学などの高い水準の学問や技術が、ヨーロッパに紹介されました。

▶2 新しい芸術と技術 ヨーロッパの生活や文化は、カトリック教会の影響を強く受けていました。しかし14世紀になると、人間の個性や自由を表現しようとした古代ギリシャ・ローマの文化を理想とするルネサンス(文芸復興)とよばれる新しい風潮が

94 小学校・地理・公民との関連 ヨーロッパ(地)、ユーラシア大陸(地)、キリスト教(教)、イスラム教(教)

節の問い

▶章のなかの各節のはじめには「節の問い」を設けています。節ごとに到達目標を明示して、見通しをもって学習に取り組みます。

第4節の問い p.124~133 江戸時代の社会は、どのような社会だったのだろうか。

第4節 天下泰平の世の中

第4節の問い p.124~133 江戸時代の社会は、どのような社会だったのだろうか。

▶1 年貢を納める様子 蔵に運ばれてきた年貢米を、俵の中からすべて出して、年貢米の量を四角の秤で量り直しているところです。(円山応挙作「七難七福図巻」京都府 相国寺蔵)

左にいる二人の武士は、何をしているのかな。

1 身分制の下での暮らし



▶江戸時代の身分別人口構成(幕末の推定値) (関山直太郎「近世日本の人口構造」)

▶学習課題 江戸時代の身分制とは、どのようなしくみののだろうか。

▶1 身分制と武士 幕府は、社会の安定化を図るため、豊臣秀吉のときに行われた兵農分離をさらに進め、17~18世紀にかけて、武士と百姓・町人の身分を区別するしくみを固めていきました。この過程で、百姓や町人に組み入れられなかった一部の人は、差別されることになりました。

この身分制の下で、政治を行う支配者の身分とされた武士は、主君に仕え、軍事や行政に関わる義務を負いました。一方で、名字(姓)を名乗ることや、刀を差すこと(帯刀)などの特権を持ちました。武士は幕府や藩の役職に就いて、幕府や藩から石高に応じて、領地や米が支給されました。

▶2 百姓・町人 全人口の80%以上を占めたのは百姓で、大部分は村に住み農業を営む農民であり、自給自足に近い生活をしていました。農民は、農地を持ち年貢を納める本百姓と、農地を持たない水呑百姓などに分かれていました。村の有力者は、名主(庄屋)・組頭・百姓代など村方三役という役目に就き、村の自治に当たりました。農民に課せられた主な税は、収穫した米の40~50%の年貢でした。年貢は藩や幕府に納められ、武士の生活を

124 小学校・地理・公民との関連 身分制(小)、武士(小)、百姓(小)、町人(小)

3 深い学びにつながる「問い」 見通し・振り返り学習がしやすい構造

②見開きの構造

見開き単位でも見通し・振り返り学習がしやすい構造になっています。
各見開きの学習を積み重ねて、章を構成する各節の「節の問い」の追究につながります。

章の問い 全国を統一する安定した政権を成立させたものは何か。

第4節の問い 江戸時代の社会は、どのような社会だったのだろうか。

第4節の問いを振り返ろう 社会が安定した結果、人々の生活や産業はどのように変化したが、説明してみよう。

節の問いを振り返ろう
▶「節の問い」を受けて各節の最後に設置しています。
学んだことを説明する形で振り返ることができます。

第3章第4節を例に

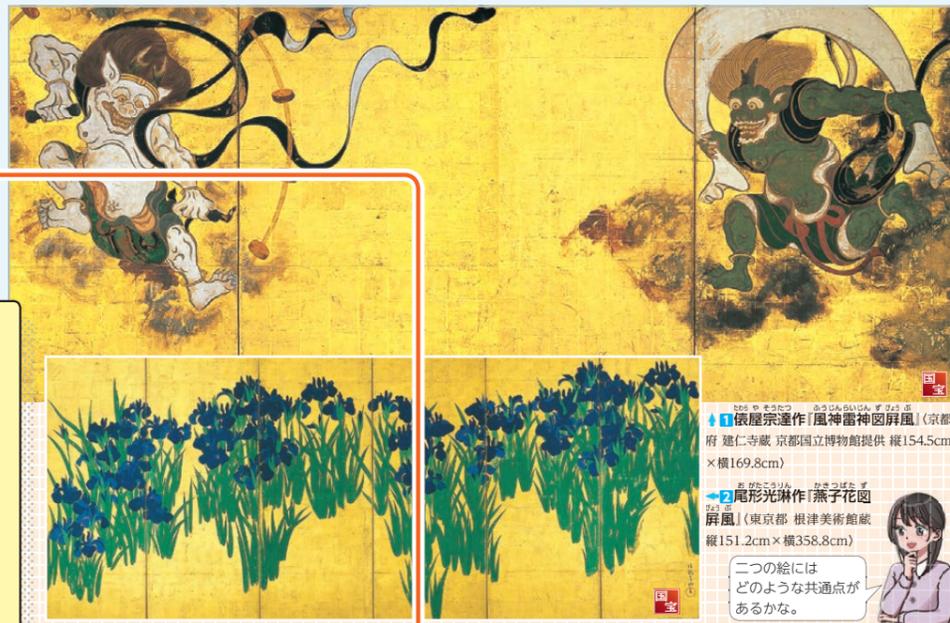
学習課題

▶「節の問い」に対応した「学習課題」を設置しています。見開きの学習内容を見通す問いです。

ポイント

節と見開きの関係イメージ

各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」でつなぐ学習内容の積み重ねが「節の問い」の追究につながります。



4 上方で栄えた町人の元禄文化

江戸時代、京都・大阪を合わせて上方とよびました。



人形浄瑠璃 浄瑠璃(物語)・三味線・操り人形から成る人形浄瑠璃は、庶民に親しまれました。現代の文楽も、その一つです。(東京都早稲田大学演劇博物館蔵)

江戸時代前半にはどのような特色をもった文化が展開したのだろうか。

町人が育てた元禄文化 戦乱の世が終わると、商業の発達と都市の繁栄によって、年貢などで生活を支える武士よりも、町人たちが経済的なゆとりを持つようになりました。17世紀末から18世紀初めにかけて、経済力や技術力を持つ上方の町人が生み出した文化を、当時の元号を踏まえて元禄文化といえます。

町人が社会の担い手となったことから、文学作品も町人の日常を描くようになりました。大阪の町人であった井原西鶴は、金銭や出世を追い求めて喜んだり悲しんだりする町人の姿を浮世草子とよばれる小説に描きました。また、町人は、その財力で人形浄瑠璃や、この時期に踊りから演劇へと形を整えた歌舞伎を楽しむようになり、義理と人情の板ばさみになる男女の姿を描いた近松門左衛門の台本は評判となりました。俳諧は、松尾芭蕉によって芸術性が高められ、町人や裕福な百姓の間で親しまれていきました。

132 小学校 ● 地理 ● 公民との関連 近松門左衛門(小)、松尾芭蕉(小)

松尾芭蕉 1644~94
俳諧を芸術の域に高めた俳人
『おくのほそ道』は、1702年に出版され、俳諧が広まるきっかけとなりました。1689(元禄2)年3月に松尾芭蕉が弟子を連れて江戸を出発し、東北や北陸を回って大垣(岐阜県)に到着するまでの、5か月にわたる行程約2400kmの旅と、各地でよんだ句を記したものです。紀行文学の傑作といわれています。

「おくのほそ道」で芭蕉が旅した道とよんだ句

松尾芭蕉と弟子(奈良県天理大学附属天理図書館蔵)

一方、「鎖国」は、日本独自の文化の発展を促しました。江戸で活躍した菱川師宣は、役者絵や美人画などの町人の姿を描いて、浮世絵の祖といわれ、浮世絵は版画にもなりました。また、政治の中心が京都から江戸へ移ったため、京都では、より文化に力を入れる動きが生まれ、俵屋宗達や尾形光琳らが屏風や時絵などに大和絵の伝統を生かした華麗な装飾画を描きました。

徳川綱吉による儒学の奨励は、ほかの学問の発展も促しました。なかでも日本独自の数学である和算では、関孝和が優れた研究を残しました。渋川春海が和算を基に、中国の古い形の暦を日本独自のものに修正したことで、日を正しく確認できるようになりました。

現在に続く年中行事と 正月や節句などの年中行事は、稲作に響き合って生まれました。18世紀になると農村では、ひな祭りや端午の節句のこいのぼり、盆踊りなどが日常生活に節目を付ける行事として定着しました。また、一日二食の食事が、三食になる形が庶民にも広まりました。さらに、菜種油などを使った行灯が照明として普及し、人々は遅くまで働いたり、遊んだりすることができるようになりました。

第4節の問いを振り返ろう 社会が安定した結果、人々の生活や産業はどのように変化したが、説明してみよう。

歴史 プラス 一大ブームとなった和算

和算の発達には、商業の発達により取り引きが活発になったことも背景にありました。そのため、一般の庶民も和算に親しむようになり、一大ブームが起こりました。人々が集まる神社や寺院には、自分の発見した数学の難問を書いた絵馬である算額が奉納され、数学の研究発表の場ともなりました。



神社に奉納された江戸時代の算額 (東京都金王八幡宮蔵)

この時代に庶民が親しんだものを、本文から二つ以上書き出してみよう。

なぜ上方の町人が文化の担い手となったのか、その理由を説明してみよう。

確認しよう

▶ 学習内容を振り返り、本文の中から学習上大きな事項を書き出す作業です。正しく文章を読む力(読解力)を養い、知識の確実な習得を促します。

説明しよう

▶ 学習内容を振り返り、習得した知識を活用して言語活動につながる問いです。思考力、判断力、表現力の育成を促します。

133 産業の発達と都市の繁栄が与えた影響を、確認しよう。

深い学びにつながる「問い」 見通し・振り返り学習がしやすい構造

③「章の学習を振り返ろう」

章の学習を振り返ろう

▶「章の問い」を受けて章末に設置しています。思考力・判断力・表現力を用いた課題での振り返りを行い、「深い学び」を実現できる構成としています。

「章の学習を振り返ろう」 ページ構成

左ページでは学習してきた知識を確認します。右ページでは「章の問い」に対して思考・判断・表現できる構成になっています。

左ページ：知識の確認



右ページ：思考・判断・表現



2 歴史的な見方・考え方を働かせて時代の特色を説明しよう >> 思考力、判断力、表現力

ステップ1 章の問いに対して自分の考えを整理しよう

1 第1～5節までの「節の問いを振り返ろう」を確認し、全国を統一するために行った政策で共通する点に着目して、安定した政権が成立するために必要なことを三つ考えてみよう。

2 1で挙げたことをカードに一つ一つ書いていこう。その際、**どの歴史的な見方・考え方を働かせたのか明示**して、その選んだ理由も記入しよう。

- 各節で振り返ったこと**
- 第1節 — ヨーロッパの国々が日本に来た目的と日本への影響
 - 第2節 — 信長・秀吉による全国統一政策
 - 第3節 — 江戸幕府の全国支配のしくみ
 - 第4節 — 安定した社会になったことで変化した人々の生活や産業
 - 第5節 — 社会状況の変化に対応した江戸幕府の政治改革

安定した政権が成立するために必要なこと
例) 幕府直属の旗本や御家人による軍事力働かせた見方・考え方
比較
理由
幕府の軍事力が圧倒的なため、大名が抵抗することができないから
根拠 (考えのもととなる資料)
112ページの9～15行目



この章の問いで働かせる 見方・考え方の例

時期や年代 → 支配の政策は、いつ行われたか
推移 → 全国を統一するしくみは、どのように展開したか
比較 → 中世の支配との違いは何か
相互の関連 → 安定した支配と外国との関係は何か

みんなと出したカードを
まとまりにする

タイトル:

安定した政権が成立するために必要なこと 例) 幕府直属の旗本や御家人による軍事力働かせた見方・考え方 比較 理由 幕府の軍事力が圧倒的なため、大名が抵抗することができないから 根拠 (考えのもととなる資料) 112ページの9～15行目	安定した政権が成立するために必要なこと 例) 大名を統制する武家道徳働かせた見方・考え方 比較 理由 きまりを定めて、... 根拠 (考えのもととなる資料)
---	---

ステップ2 話し合いを通して自分の考えを深めよう

1 グループになり、みんなと書いたカードを出し合って並べてみよう。同じ理由や近い感じのする理由のカードごとにまとまりにしていこう。新しく追加する要素が見つかった場合は、カードを作成して加えよう。

2 まとめたカードごとに、まとめた理由が簡潔に分かるタイトルをつけていこう。

3 グループで、章の問いの答えとして、最も適切と考えられるまとまりはどれか話し合ってみよう。

4 今までの作業を踏まえて、章の問いの答えを説明しよう。

章の問いの答えを理由とともに説明しよう

全国を統一する安定した政権を成立させるために必要なことは、
() である。
なぜなら ()
() [だ] からである。

ステップ3 この時代の特色を理由とともに説明しよう

章の問いの答えを踏まえて、この時代はどのような時代だったかを、**自分の言葉で説明してみよう**。その際、自分が理由を考えるときに重視した歴史的な見方・考え方に○を付けよう。

この時代は、() [の] 時代である。
それは、(時代や年代, 推移, 比較, 相互の関連) に注目して考えると () [だ] からである。

ステップ1

「章の問い」に対して自分の考えを整理する。

- ▶「節の問いを振り返ろう」を集約する。
- ▶「歴史的な見方・考え方」を働かせる。
- ▶自分がそう考えた理由とその根拠となる資料を挙げる。

章の問い 全国を統一する安定した政権を成立させたものは何か。

安定した政権が成立するために必要なこと
例) 幕府直属の旗本や御家人による軍事力働かせた見方・考え方
比較
理由
幕府の軍事力が圧倒的なため、大名が抵抗することができないから
根拠 (考えのもととなる資料)
112ページの9～15行目

安定した政権が成立するために必要なこと
例) 大名を統制する武家道徳働かせた見方・考え方
比較
理由
きまりを定めて、...
根拠 (考えのもととなる資料)

ステップ2

話し合いを通して「章の問い」の答えを説明する。

- ▶グループでカードを出し合ってまとめる。
- ▶まとめたカードにタイトルを付ける。

例 章の問いの答えを理由とともに説明しよう

全国を統一する安定した政権を成立させるために必要なことは、(強大な権力をもつ幕府のしくみをつくること) である。なぜなら (江戸幕府は、全国の4分の1の土地を直接支配し、全国のおもな鉱山を直轄地とし、貨幣をつくる権利を握り、貿易を独占し、強大な軍事力をもっていたために、大名をおさえることができた) [だ] からである。

ステップ3

「章の問い」の答えをふまえて時代の特色を自分の言葉で説明する。

例

この時代は、(戦乱がなく、武士による安定した政治が行われた) [の] 時代である。それは、(時代や年代, 推移, 比較, 相互の関連) に着目して考えると (戦乱が続いた中世に対し、江戸幕府による大名統制、貿易統制や身分の統制で、秩序を重視した社会になった) [だ] からである。

p.146-147

147

3 深い学びにつながる「問い」 異なる意見や立場から歴史を考察する特設ページ

考察の視点

▶ 考察する際の視点(ポイント)を明示しています。ここでは、武力の重視から文治政治に転換していく時代に起こった赤穂事件の処罰をめぐって、当時の社会の様子を多面的・多角的に考察することがポイントになっています。

考察のテーマ

▶ 考察の視点を受けて、考察のテーマを設定しています。赤穂事件の処罰についての、当時の議論がテーマになっています。

当時の社会の様子を読み解く資料

▶ 当時の社会情勢を反映する資料を読み解くことで、当時の社会の考え方をふまえてテーマをさらに深く考察します。ここでは、赤穂事件の経緯を概観したうえで、江戸の人々が事件をどのように見ていたのかを示し、また私的な争いを禁止する武家諸法度の条文などを提示しています。

多面的・多角的に考えてみよう

赤穂事件を考察する - 旧赤穂藩の浪士たちの処罰の行方

考察の視点 徳川綱吉(→p.125)の治世である1702年12月14日、旧赤穂藩の浪士(赤穂浪士)たちが吉良邸に討ち入り、吉良上野介義央を討ち取りました。江戸の人々は、浪士たちを主君浅野内匠頭長矩の仇討ちを果たした「忠臣の義士」と褒めたため、諸藩からも彼らを助命する願いがありました。このような状況で、幕府は赤穂浪士たちにどのような処罰を下したのでしょうか。当時の人々の考え方を踏まえながら、この処罰の方針をめぐる意見の対立から、当時の社会の様子を多面的・多角的に考察してみよう。

▶ 吉良邸への討ち入り(葛飾北斎作「仮名手本忠臣蔵」江戸東京博物館蔵)



テーマ 赤穂浪士を「忠臣の義士」として許すか、「徒党」を組んだ罪で厳罰にするべきか。

5代将軍徳川綱吉は迷っていた… ※忠臣…主君に忠義を尽くす臣下 孝子…親孝行な子

もし、主君の仇討ちを許さないというのであれば、古からの道理にも背き、忠臣や孝子の心を傷つけることになる。さらには、「学問・武道と忠義・孝行に励む」とした武家諸法度にも背くものである。浪士たちを厳罰にするのは、果たして適切なことなのだろうか。

幕府の評定所[※]の意見 ※幕府の政治と裁判を行う機関

浪士たちは主人の遺志を継いだ忠臣です。大勢で討ち入ったのはその志を遂げるためのしかたがない手段です。しばらくは大名預けとして何年か後に判決を出すのがよいと考えます。

幕府直轄の学問所の林信篤の意見

主君の仇討ちを果たした彼らは、武士道を実践して大いに褒められるものです。しかし、彼らが天下の法を破ったことは間違いありません。これは道理に背くものです。

綱吉の老中に仕えた儒学者 荻生徂徠の意見

浅野が吉良を殺そうとしたのであって、吉良が浅野を殺したわけではありません。そのため、吉良は浅野の仇ではありません。浅野は、一時の怒りから吉良を殺そうとしたので、浪士たちの行動は、主君のこの「邪志」を継いだものであって、忠義とはいえません。 ※間違えた思いや考え

多面的・多角的に考えてみよう

整理しよう ①あなたが、将軍綱吉だったとして、幕府内の意見と資料1・2を読んで、浪士に対して助命する意見と厳罰にする意見を、その根拠を示して整理してみよう。

	主な意見	その根拠
助命		
厳罰		

考えよう ②あなたが、当時の江戸の人であったら、なぜ赤穂浪士をたたえたのか、その理由を考えてみよう。

わたしが赤穂浪士をたたえた理由は、
() からです。

144

▶ p.144-145

特設ページ「多面的・多角的に考えてみよう」を3か所設けています。本文ページと関連した歴史的事象をテーマに、異なる意見や資料を通して多面的・多角的に考察することで、思考力・判断力・表現力を育みます。

技能をみがく 資料を基に、当時の人々の考え方を理解する

当時の人々の考え方は、現在の私たちと同じとは限りません。当時の人々の考え方を理解するには、当時の人々の言葉などの資料を基に、当時の人々になったつもりで考えることが大切です。



資料1 赤穂事件の概要

1701(元禄14)年 松の廊下事件 赤穂藩主浅野内匠頭長矩が、江戸城の松の廊下で、吉良上野介義央を切りつける。→浅野内匠頭長矩は即日切腹。赤穂藩は改易(廃藩)となる。吉良上野介義央は、処罰はなし。

1702年12月14日 赤穂事件 旧赤穂藩の浪士たちが吉良邸に討ち入り、吉良上野介義央を討ち取る。

赤穂浪士をよんだ歌

たのもしや内匠の家(浅野内匠頭)に内蔵(大石内蔵助)があつて、武士の鏡を取り出しけり

頼もしいことではないか。内匠の家(浅野内匠頭)に内蔵(大石内蔵助)があつて、武士の鏡(鑑、手本)を取り出してきた。

※切腹は武士の礼になつた処罰と考へられていました。一方、打ち首は屈辱的な処罰と考へられていました。

※切腹は武士の礼になつた処罰と考へられていました。一方、打ち首は屈辱的な処罰と考へられていました。

資料2 武家諸法度の方針の変更

武家諸法度 天和令

一、学問・武道と忠義・孝行に励み、礼儀正しくふるまふこと。
一、謀反を計画したり、仲間(徒党)を集めて行動を起こす誓約を結ぶことを禁止する。
一、喧嘩や口論はしないようにし、私的な争いを禁止する。もし、やむを得ない理由があれば、奉行所に届けて指示を待つこと。

幕府の赤穂浪士に対する処罰

浪士たちは、主人の仇に報いると主張して、浪士たちで徒党を組み、吉良邸へ押し込み、飛び道具などまで持参し、吉良義央を討つたことは、幕府を恐れぬ行動で、法に背いた行為である。これによって切腹を命じる。

説明しよう ③今までの意見を踏まえ、将軍であるあなたは、どのような処罰を下すだろうか。助命にするか、厳罰にするか、その他の処罰にするかのいずれかを選び、当時の資料に基づいた判断の根拠を明確にして説明しよう。

助命	厳罰	その他
赤穂浪士たちの処罰は、		
その根拠		

話し合ってみよう

④下の資料の、実際の幕府の処罰を読んでみよう。そして、あなたの考えとどの点に相違があったのか、確認してみよう。⑤なぜ、幕府は浪士たちに、全員「切腹」という処罰を決定したのだろうか。その理由を綱吉が目指した政治の考えを基にして、グループで話し合ってみよう。

掲載ページ一覧 (3か所)

※太字：ここで扱っているページ

ページ	タイトル
p.144-145	赤穂事件を考察する
p.188-189	『三酔人経綸問答』を考察する
p.230-231	『母性保護論争』を考察する

当時の人々の意見

▶ テーマを受けて、相対立する意見を具体的に見ていき、多面的・多角的に考察するきっかけにしています。ここでは、赤穂事件をめぐって、どのような意見があったのかを具体的に示しています。

考えを深めるアクティビティ

▶ 論点の整理→自分なりの考察→話し合いというように段階的に自分の考えを深めていくなかで、思考力・判断力・表現力を育みます。